

拠点都市に向けて・龍ヶ崎市の新しいまちづくり

龍ヶ崎市議会議員 **大竹のぼる**



龍ヶ崎市は、東京から 50 km 圏内に位置し、国道 6 号線と接し、常磐線佐貫駅があり、牛久沼・蛇沼・中沼の 3 つの沼と森林や小貝川と小野川に挟まれた穀倉地帯です。また、歴史と伝統を語れる街並みがあります。

東京から 50 キロ圏内に駅のある市町村で経営耕作面積が 2000ha 以上もあるマチは龍ヶ崎市だけです。かつては、県南の雄とも呼ばれ、農工商が発展したマチであり、昭和 57 年からはベットタウンとして人口が飛躍的に増え、多くの人材が集まっているマチでもあり、田園文化都市としての自然環境に満ちているマチです。

国は平成 26 年 11 月 21 日に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、**地方自治体に自立した、独創的な経営戦略を求めています。ほんとうの地方分権の時代が来たといえるでしょう。**

地方分権は「国が何かをしてくれる」という待ちの姿勢では、何も始まりません。わが龍ヶ崎市も自主的・積極的に施策を考え・実行し、中核的な機能をもつ、往年の茨城県南の雄としての誇りをもったマチであり続けたいと思っています。

今こそ、市民の英知を結集し、市民の皆様が、このマチが再び繁栄の道に進むべく自分たちのマチのために何を考え、何ができるか挑戦する姿を想像し、私自身何ができるのか、きっかけになる「夢のグランドデザイン」図を描きながら、多くの市民の皆様に関心を持ってほしいと思います。

課題を解決しながら、夢のグランドデザインへ

大竹のぼる の政策提言



私案として「夢のグランドデザイン」をつくりましたが、もちろん夢だけでは龍ヶ崎は変わりません。身近な問題を認識し、課題を解決しなければなりません。

●循環型社会をつくる

高度経済成長の時代から、私たちに身についた大量生産・大量消費・大量廃棄の生活は、膨大なゴミや排気ガスを出し続け、龍ヶ崎市のゴミ処理も限界に近づいています。

- 1、ゴミの単純な焼却システムから、バイオマス発電へ
- 2、家庭排出の生ゴミ処理システム・堆肥還元
- 3、食用油のリサイクル化の全市的取り組みの促進
- 4、太陽光発電等のエネルギーへ（公共施設の目標 30%）
- 5、エネルギー充填施設（市役所に設置してエコカー普及）

●教育問題・小中学校統廃合問題

子供達の遊びには、時間・空間・仲間が必要であり、自然の遊び場から、五感を磨く。そこから探究心が生まれ学びの心が通います。

- 1、小中一貫校の設置・個性的な授業環境の推進
- 2、親子の躰教室・放課後広場（時間外の子育て環境）
- 3、知育・徳育・体育・食育・眠育の統合的取り組み
- 4、学校集約に伴う通学手段・システム整備（バス運営等）

●少子・高齢化問題

龍ヶ崎市は、2010 年の 80,334 人から 2040 年には 69,589 人

になり、そのうち 36% が 65 歳以上になると推定されています。

- 1、子供たちの帰郷支援制度（住居、就職、通勤、育児）
- 2、住宅リニューアル支援制度
- 3、通院・買い物など高齢者等乗り合いタクシー制度の拡充
- 4、生活・なんでもお助け隊 NPO 支援

●子育て支援

子供を育てる親の責任を明確にし、必要な状況によってその部分に特化して支援する。

- 1、保育、ベビーシッター支援制度
- 2、子育て救急システム（緊急時助言制度・人的支援組織と連携取り組みプログラム）
- 3、民間による学習塾的教育支援、社会順応支援プログラム

●公共施設再配置問題

市役所も小中学校も市民会館も、……建物（ハコモノ）は、近い将来耐用年数をこえ、建て替え、大修理が必要になります。

- 1、公共施設再評価市民会議の設置
- 2、公共施設民営化プロジェクト、事業仕分け再開
- 3、近隣市町村と連携し、再配置する

●安心・安全 防災、防犯

大規模な災害発生に備えて、指示系統を明確にしたうえで、単にカタチを備えるのではなく避難訓練を充実させます。

- 1、市内全域 Wi-Fi 化、防災・防犯のための通信環境を整備
- 2、高台地域と洪水危険地域等の連携制度
- 3、防災センター、防災備品センター設置、市民への周知を徹底

夢のグランドデザイン・龍ヶ崎再生構想

「都会 + 田舎 = (とかいなか)」ビジョンを推進し若者を呼びこもう!

- 1) 磨けば光る観光農業化へのチャレンジ
- 2) ICT環境整備とICTビジネス創生
- 3) 自然と人の共生と循環型社会への変貌
- 4) 環境と教育を優先にするひとづくり
- 5) 都市構造の見直し、コンパクトシティ化



●牛久沼・佐貴周辺の人に優しいゾーン

I・J・Uターンの若者と高齢者向けの住宅環境を整備し、賑わい広場により移住・定住促進をはかり、ドラゴンレイク道の駅や散策ロードの整備、自然回帰作戦として牛久沼水辺の浄化を推進する。佐貴周辺コンパクトシティ化ゾーンです。

●ドラゴングリーンツーリズムゾーン

植物・果実工場、養魚場(トラフグ・モロコ)、農産物加工・販売センター、エコ温泉、民宿や農工商情報センター、そしてバイオマス処理場などによる就業・観光環境の創出。楽しい自然・農業・加工体験による学ぶ観光や宿泊もできます。地域観光産業化ゾーンです。

●南西地域の米どころゾーン

高品質化の特別栽培米や創意工夫によるブランド米の生産拠点。米粉による少量・高品質・多種類のチャレンジ工房や加工場の設置(パン・かりんとう・せんべい・スイートケーキなど)。米ブランド化ゾーンです。

●センタービレッジ(中心市街地)ゾーン

都市機能の充実と伝統工芸・文化財保護のまち、防災・防犯センターの設置による安全・安心のまちで、地元の逸品の店揃い、ご利益神社・仏閣前通り、新しい観光農業による特産店など、お客様が、街中を歩きまわり、覗いてみたり、立ち止まって考えてみたり、話しかけたりできるまち、セグウェイや自転車が似合うまちまちづくりゾーンです。

●北東地域のICTゾーン

森林公園やゴルフ場や工業団地そして農業公園や湯ったり館と施設は揃ってはいますが、森林の自然の素晴らしさを体感できるラインは

見えません。この地にこそ、ICT環境を整備しICTビジネスや小中高一貫校を誘致します。自然の風景と近代技術をマッチングさせ、知育・徳育・体育・食育・眠育を大切に、将来を担う子供たちの成長を基本テーマにした教育とICTゾーンです。

●南東地域のハーブガーデンゾーン

米どころ穀倉地帯であり、大規模農場と6次産業化をめざします。飛行場の存在も再発見しなければなりません。龍ヶ崎市を空から見たり東京・横浜方面への遊覧飛行も見所が増えるでしょう。ハーブ栽培、薬草園やフラワー温室、散策周道や癒しのヒーリングホテルなど、旅人は農薬を使わない地元の食材による手料理で季節の旬を感じるハーブカフェなど、人との交流が健康に役立ち、ストレス解消ができる、ヘルスツーリズムゾーンです。

●南地域の牧場・果物ハウスゾーン

循環型社会の形成に向けてのバイオマス処理場をもった近代牧場、燻製工場、龍ヶ崎ブランド化への生産基地です。「龍ヶ崎ピーナツ豚」によるコロッケや龍ヶ崎トマトによる地域自慢のトマトソース、龍ヶ崎米粉のパンやお菓子工場、そして観光客を呼ぶ農業博物館、龍ヶ崎ブランドの構築をめざすゾーンです。

市民のおもてなし文化の行き届いている姿に、住みたい・住み続けたいまち日本一になりましょう。

●大竹のぼる

〒301-0837 龍ヶ崎市根町 781-2

ホームページ <http://www.ryu-otake.jp>

TEL・FAX 0297-62-8383 携帯電話 090-2941-6881

Eメール: noboru-o@star.ocn.ne.jp